

MONO KOTO YUME
TAKARABUNE EXHIBITION 2018 @MOMAS

宝船展

2018年1月10日(水)〜14日(日)
埼玉県立近代美術館にご共催いただき、同館地階一般展示室で「宝船展2018」が開催されました。

今年は、募集呼びかけから開幕まで一か月足らずと準備期間の短さが心配でしたが、32組38作品と昨年の倍近いエントリとなりました。初参加の方やパフォーマンス等でのエントリも多くフレッシュでにぎやかな場となりました。

土曜、日曜は、それぞれ150名を超すお客様が来場し、会場にも活気があふれる二日間となりました。土曜日のアーティスト・トーク、ラウンドテーブルにも多くの出展者が参加、プロジェクトの夢や自作への思いを熱くまた率直に語りました。

その後の交流懇親会には、34名が参加、それぞれの作品や活動について活発に意見交換しました。宝船展の前身の「さんなすび展」以来、初夢の交換を契機にヒョウタンからコマのように、毎回いくつもの夢が実現されてきたこの企画、今年もこの「ものことゆめの交換」会からどんな動きが展開されていくのか楽しみです。(M・N)
(来場者は、5日間・計535名)



連携美術館プログラム情報

うらわ美術館

ゆらゆらアートプラネタリウム 光る星空をえがこう

多世代交流ワークショップ

日時:2018年1月13日(土) 10:30~12:30(午前の部) / 14:00~16:00(午後の部)

主催:うらわ美術館 / SMF

講師:小池ちかこさん(美術活動家・臨床美術士 / さいたま市在住)

うらわ美術館で開催された「多世代交流ワークショップ」の午後の部にお邪魔させていただきました。

作業としては、ビニールシート1枚に対し2組の参加者ごとにペアになり、交流しながら星空を仕上げていくことになりました。自己紹介を兼ねた星座にまつわる小話で緊張がほぐれてきたところで作業スタート。(写真①)



1

を参加者の皆様同士でつなげ、天井につるします。(写真⑤) 照明を落とし、鑑賞します。

さらに、ブラックライトを点灯し鑑賞します。

星空の出現です! (写真⑥)

今回親子での参加ということで、お子様の写真を撮りつつ絵を描くときは真剣という、大人がいたことや、始めのうちに硬かった表情が描いていくうちにペアの



5

まずは、紙をずらして顔を描いていきます。

眼、眉毛、鼻、耳、髪の毛の順番で、書いた絵をペアの親子同士で見せ合うことで、自然と場が和んでいきます。(写真②)



2

次にビニールシートに星空を作る作業に移ります。

まず蓄光シールを自由に貼り、シールをペンでつなぎ(写真③)「長い線をゆっくり書くと気持ち安らぎますよ」と講師の小池ちかこさんからアドバイスがありました。



3

蛍光ペンで自分の考えた星空を描いていきます。(写真④)

絵を描いている最中にヒーリング音楽が流れていて、みなさんもリラックスしながら楽しんでいました。

続いて出来上がったシート



4



6

方々と寝めあったりとしているうちに、徐々に柔らかくなり、星空が出現した瞬間には「おー」と一体感が生まれ解散する時にも笑顔で帰っていかれたのが印象的でした。

うらわ美術館では、今回のワークショップ以外にも様々なイベントが開催されています。ぜひ、足を延ばしてうらわ美術館に行かれてみてはいかがでしょうか?

(A.M)